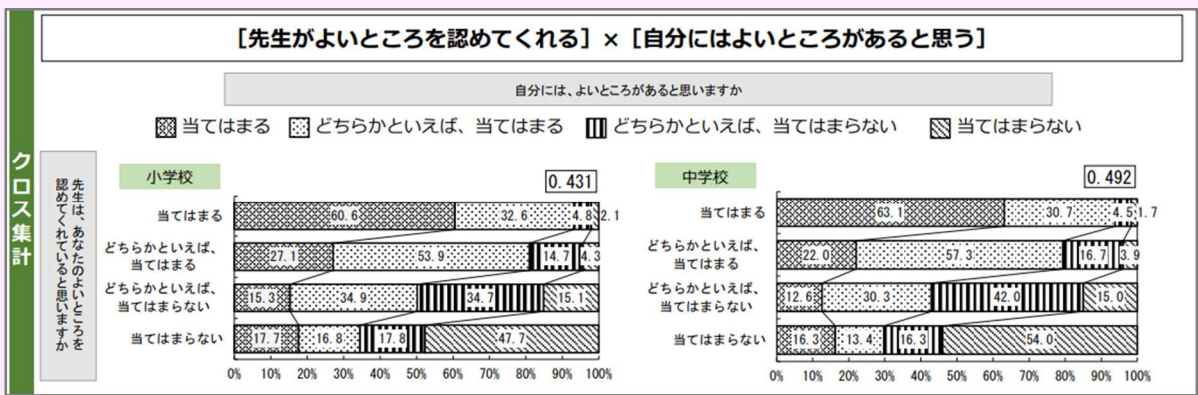


学習状況調査の結果から先生によいところを認められると、子どもは自分によいところがあると思っ... (text continues)



「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果」より引用

やはり、先生が子どものよいところをほめたり認めたりすることは大切なのですね。

先生をはじめ、様々な人がほめたり認めたりすることは子どもにとって重要です。幾つか例を紹介しますね。

先生がほめる・認める

学校で身近に関わっている先生が、ほめたり認めたりすることは大切です。個人や集団に対して、望ましい行動が日常に広がるように働きかけを行います。

言葉でほめる・認める

望ましい行動をほめたいとき

- 「頑張っているね」
「できたね」「すごいね」
「嬉しい」「ありがとう」「助かった」
「あなたのおかげでとても助かった」
「この前より随分うまくなったね」
「この部分はとてもいいと思うよ」

望ましい行動を日常に広げたいとき

- 「どうやってやったの?」
「どんな風にやったの?」
「どんな工夫をしたの?」
「何が役に立ったの?」
「何がよかったの?」

可視化してほめる・認める

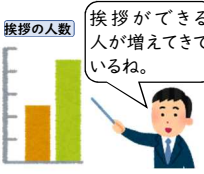
スタンプ、シール
個人のファイルやノートに残します。



賞状、チケット
望ましい行動ができたなら賞状やチケットにして渡します。



できたことのグラフ化
望ましい行動ができたことを子どもと共有できるようにします。



子どもが互いにほめる・認める

学級活動や授業中などに、子どもが互いにほめたり認めたりする機会を増やすことができる活動を仕組みます。

学級・ホームルーム活動での紹介タイム



授業での取組

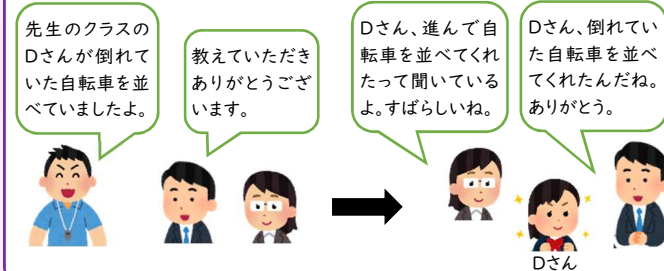


掲示物での紹介(ありがとうカード、いいねカードなど)



全職員でほめる・認める

学年会や職員会議、休み時間等で情報の共有を適宜行い、様々な先生が子どもをほめたり認めたりできる環境を整えます。



保護者がほめる・認める

学校からの通信や連絡帳、電話連絡等を通じてよい知らせを伝えることで、保護者が子どもをほめたり認めたりする機会が増えます。



これから、子どもの成長・発達を支える生徒指導に力を入れていきます!

支える生徒指導を目指して、一緒に頑張りましょう!

始めよう! 支える生徒指導



今日も子どもを厳しく注意してしまいました。生徒指導って、どのようにしたらよいですか?

令和4年12月に改訂された『生徒指導提要』では、子どもの成長・発達を支える生徒指導への転換を目指すことの重要性が示されています。これから一緒に見てみましょう。

生徒指導提要



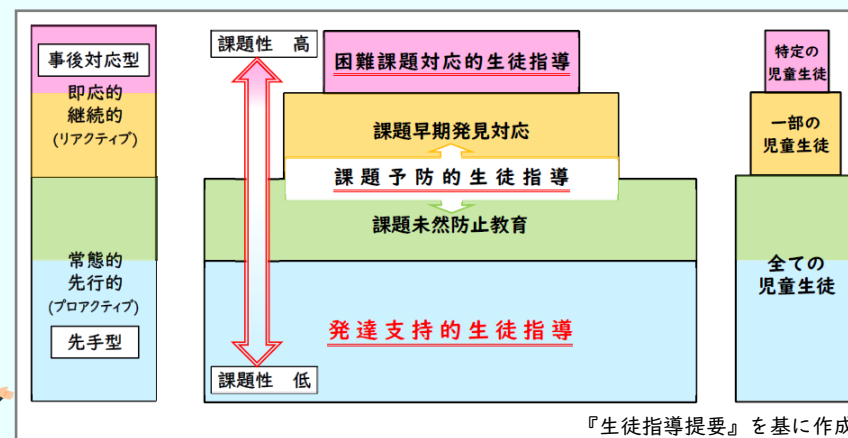
成長・発達を支える生徒指導

成長・発達を支える生徒指導への転換とは、今までと何が違うのですか?

今まで同様、いじめや不登校、暴力行為など特定の児童生徒に焦点化した指導・援助は必要です。それ以上に、未然に防止するための常態的・先行的な対応である「発達支持的生徒指導」の充実が求められています。

「発達支持的生徒指導」とはどのようなものですか?

「発達支持的生徒指導」とは、生徒指導の基盤となるものです。ポイントは、以下の3点です。
・特定の課題を意識しない
・全ての児童生徒が対象
・全ての教育活動において進めていく

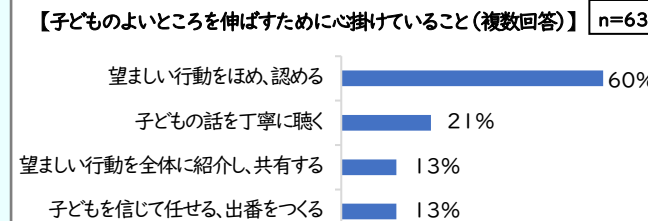


『生徒指導提要』を基に作成

具体的にどのように成長・発達を支えるのですか?

日々の先生方の子どものための挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけを通して、子どもの成長・発達を支えます。

佐賀県内の一部の先生方に生徒指導に関する教職員向けアンケートを実施しました。その中で「子どものよいところを伸ばすために心掛けていること」の項目に対する結果は右のグラフのとおりです。子どもの望ましい行動に目を向けていますね。



望ましくない行動にばかり目がいき、注意していましたが、望ましい行動に目を向け、ほめたり認めたりすることを心掛けるとよいですね。

そうですね。次のページでは、子どもの成長・発達を支えるために、子どもの望ましい行動を増やす働きかけについて説明します。

# 望ましい行動を増やすための働きかけ

※ このページで紹介している具体的な働きかけは、PBIS (Positive Behavioral Interventions and Supports: ポジティブな行動介入と支援) の考え方を参考にしています。  
 ※ このリーフレットにおいて「当たり前の行動」とは、教師ができて当たり前だと思い、見落としている子どもの望ましい行動のことを表しています。  
 ※ このリーフレットにおいて「ほめる・認める」は、ほめる行為と認める行為を教師が子どもに「肯定的な認識を伝える」という同じ目的の下で行うものとして使っています。

望ましい行動とはどのような行動ですか？

望ましい行動とは、子ども本人や子どもに関わる人々の人生をより豊かにすることにつながるような行動です。それは、子ども本人や子どもに関わる人々がその行動ができることに「価値」を感じ、その行動を「できるようになりたい」「できるようになって欲しい」と思える行動です。その望ましい行動には、学校生活の中に多くある「**当たり前の行動**」や「**今、できている行動**」も含まれます。望ましい行動と望ましくない行動は同時に行うことはできないため、望ましい行動が増えることは同時に望ましくない行動が減ることにつながります(図1)。  
 (例) 静かに廊下を歩く (望ましい行動)  
 廊下を走る (望ましくない行動) } この2つを同時に行うことはできません。  
 子どもの望ましい行動に着目し、それを増やすための働きかけを行うことで、望ましくない行動を減らすという発想の転換を行いましょう。



図1 望ましい行動と望ましくない行動の割合

では、望ましい行動を増やすためには、どのような働きかけを行えばよいのですか？

次の3つのステップに沿って働きかけを行うことをお勧めします。

## Step1: 望ましい行動について共有する

どのような行動が望ましい行動かを子どもと一緒に考えながら、**望ましい行動について共有**しましょう。

【具体例1】(学級・ホームルーム活動など)



【具体例2】(集会後の学級・ホームルーム活動など)



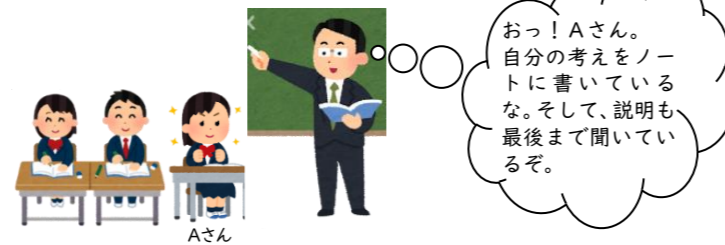
### 望ましい行動について共有する働きかけの例

- 望ましい行動に関する具体的な指示やルールをつくる (行動表、学級目標など)
- 望ましい行動の手本を示す (子どもによるモデリング、モデリングビデオなど)
- 物理的な環境を整える (ポスター掲示、通信での情報共有など)

## Step2: 意識して見る

望ましくない行動ばかりに気をとられてしまうと、望ましい行動を見落としてしまいがちです。子どもの「**当たり前の行動**」や「**今、できている行動**」を**意識して見**ましょう。

【具体例1】



【具体例2】



### 意識して見る行動の例

- 当たり前の行動 (廊下を歩いて移動している、挨拶をしている、課題を提出している、片付けをしているなど)
- 今、できている行動 (全てではなくても一部分できている、できていなかったことが今はできているなど)

POINT できている「子ども」  
できている「とき」を探す

## Step3: ほめる・認める

望ましい行動を**ほめたり認めたり**することにより、子どもの自信を高め、望ましい行動を日常化できるようにしましょう。

【具体例1】



【具体例2】



### ほめる・認める働きかけの例

- 言葉でほめる・認める (授業での机間指導、休み時間、校内放送、集会など)
- 可視化してほめる・認める (丸付け、花丸、シール、スタンプ、手紙、賞状、チケット、カレンダーへの記録、できたことのグラフ化、ピー玉貯金など)

POINT 望ましい行動を「**すぐに**」ほめたり認めたりすると、更に効果アップ

なるほど！この3つのステップに沿って働きかけてみます。



でも…。もし、子どもが望ましくない行動をしていたら、どのような働きかけをすればよいですか？

注意する、叱るだけではなく、その望ましくない行動の代わりになる望ましい行動と一緒に考えたり教えたりすることが重要です。以下の流れを参考に働きかけてみましょう。

- ①「なぜ、そのような行動をしてしまったのか」を聴き、望ましくない行動の何がよくなかったのかを一緒に確認する。
- ②「どのように行動すべきだったか」代わりの望ましい行動と一緒に考えたり具体的に教えたりする。  
 グループ活動に参加したくないほど、嫌な気持ちになったんだね。また、同じようなことがあったときにどうすればよいか、一緒に考えよう。
- ③その行動ができたときには、すぐにほめる・認める **Step3**

日頃から望ましくない行動よりも望ましい行動に着目し、それらを増やす働きかけを行うことで、子どもの成長・発達を支えていきましょう。次のページでは、「みんなでほめる・認める」について詳しく紹介します。